

# Step1:データの準備

1. 可視化したいデータの用意 (.csv, .xlsx, .xls のいずれか)

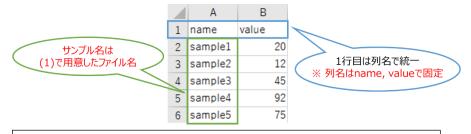
[例: TG-DTA の測定データ] ファイル名: sample1.xlsx

A	Α	В	С	D
1	Time(min)	Temp.(°C)	TG(%)	$DTA(\mu V)$
2	0	27.556999	0	-0.496875
3	0.016667	27.584999	0.0003	-0.496625
4	0.033333	27.614	0.0015	-0.49375
5	0.05	27.645	0.0036	-0.490875
6	0.066667	27.677	0.005999	-0.490125
7	0.083333	27.705999	0.007799	-0.492875

1行目は列名で統一 ※ 列名は任意

2. <任意> グラフ色設定用データの用意 (.csv, .xlsx, .xls のいずれか)

[例: TG-DTA 測定サンプルのその他の物性値データ]



※ この値を基に各サンプルのグラフ色を自動で設定できます 何か別の値(物性値)の大小比較を伴ったグラフを作成したい場合に作成ください

#### \*サンプルデータ

- ・ 5 サンプル分の TG-DTA データ (sample1~sample5.xlsx)
- ・ 5 サンプル分の物性値データ(color\_setting.xlsx)



sample\_data.zip

- ※ サンプルデータ(.zip ファイル)はアプリ内でダウンロード可能です
- ※ 物性値データは仮想の値です
- ※ アップロードを行う時、ファイルを開いているとエラーが出るので注意!!

## Step2: グラフの可視化

1. Graphica.exe を開き、データをアップロード



# 1. データのアップロード 可視化したいファイルをアップロード [.csv,.xlsx,.xls] O Drag and drop files here Limit 200MB per file • CSV, XLSX, XLS \*\*CSVファイルの文字コードはUTF-8としてください

※ アップロードが完了すると、「2.データの確認, 3.グラフ可視化」が表示されます

# 2, 3. 読み込みデータを確認の上、可視化するファイルを設定

 2. データの確認

 アップロードされたデータを表示

 3. グラフ可視化

 表示するファイルを選択してください

 sample1 × sample2 × sample3 × sample4 × sample5 ×

 全選択

※ 可視化するデータを選択すると、「4.グラフ描画 と サイドバー」が表示されます

# 4-1. (1) <任意> Step1-2 で作成したグラフ色設定用データのアップロード

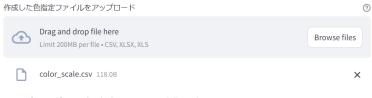


## 4-1. (2) <任意> color 列が追加された color\_scale.csv をダウンロード



# 4-2. <任意> ダウンロードした color\_scale.csv をアップロード

4-2. 色指定ファイルのアップロード(任意)



※アップロードがない場合、各グラフのカラーは自動で設定されます

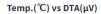
# 4-3. x 軸, y 軸に用いるデータ列を指定して、"グラフ 1 を表示"ボタンを押す

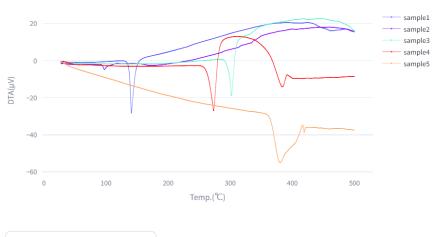
4-3. グラフの作成



## <表示グラフ例>

# 機能① 作成したグラフは、html としてダウンロードすることで保存可能





HTMLをダウンロード (グラフ 1)

# 機能② 凡例のクリック・ダブルクリックによって、可視化するサンプルを任意に設定することが可能

Temp.(°C) vs DTA( $\mu$ V)



## 機能③ 複数のグラフを同時に可視化

※ 上図、"グラフ設定 2"を開いて、2つ目以降のグラフ作成が可能